

**令和7年度第2回青森県公共事業再評価等審議委員会  
事後評価調書における事前質問に対する回答票**

質問者	鈴木 委員（八戸工業大学 工学部 教授）		
番号	R7-1	事業名	農業水利施設魚道整備促進事業
地区名等	五戸川		
<p>(質問等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚道整備区間（前後を含む）で内水面漁業を営まれている方はいますか。</li>   <li>・ p.5 事業効果の発現状況のアンケート回答において、「魚がどのくらい戻ってきているのか、データが示されていないので判断できない。」という重要な指摘があります。県あるいは管理者は、生息魚種（数量含む）の調査を行う予定はありますか。</li> </ul>			
<p>(回答：農村整備課)</p> <p>(1)魚道整備区間を含め、五戸川において内水面漁業を営んでいる組合等はありませんでした。</p> <p>(2)県では、魚道の効果検証として、魚道設置前（H20、H21）と設置後（H30、R3）に生態系調査を実施しています。調査の結果、新たに11種について上流側への生息域の拡大が見られたほか、6地点の魚道で24種のうち13種が遡上している状況が確認されました。</p> <p>今回のアンケート調査では、回答者への配慮が足りず、生態系調査結果を添付していませんでしたが、今後は、生態系調査結果を示すなどして魚道整備の目的や効果をPRしながら事業を進めていきます。</p>			

**令和7年度第2回青森県公共事業再評価等審議委員会  
事後評価調書における事前質問に対する回答票**

質問者	南委員（八戸工業高等専門学校 産業システム工学科 教授）		
番号	R7-1	事業名	農業水利施設魚道整備促進事業
地区名等	五戸川		
<p>(質問等)</p> <p>1)資料3/17：総事業費が約4億円増となっています。特記事項に「魚道形式の変更」と「護岸工の追加等」が事業費増の要因と記載されています。それぞれ、内訳はどの様になっていますか？</p> <p>2)資料8/17：今後に向けた留意点の末尾に「魚道の目的や効果をPRしながら事業を進める必要がある」と記載されています。具体的にどのようなPR方法を考えていますか？</p>			
<p>(回答：農村整備課)</p> <p>(1)当初484百万円の事業費が最終実績879百万円となり、395百万円の増となった要因は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚道検討委員会の助言に基づく魚道形式等の変更による増 248百万円</li> <li>・労務費や資材価格の高騰など社会的要因による増 54百万円</li> <li>・魚道整備後に魚類調査を追加したことによる増 48百万円</li> <li>・河川協議により護岸工の追加による増 16百万円</li> <li>・その他（安全柵の追加など）による増 29百万円</li> </ul> <p>(2)地元活動組織が開催する稚魚放流イベントや、関係改良区が主催する会議において、県が魚道整備の内容や魚の遡上効果を説明するとともに、地域住民へチラシの配布を行うことを検討していきます。</p>			

**令和7年度第2回青森県公共事業再評価等審議委員会  
事後評価調書における事前質問に対する回答票**

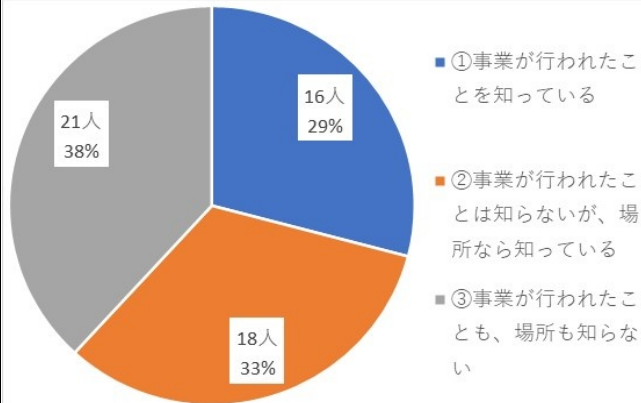
質問者	森（洋） 委員（弘前大学 農学生命科学部 教授）		
番 号	R7-1	事業名	農業水利施設魚道整備促進事業
地区名等	五戸川		
<p>（質問等）</p> <p>一般的な土木施設構造物の中でも魚道施設は、地域住民にそれ程馴染み深い施設でないため、事業効果等を判断するには必要な情報や知識を持ち合わせていないケースが多い。そのため、「R7-3・道路改築事業」でのアンケート結果の整理のように、一般（地域）住民と企業（団体）関係者を分けて整理した場合での検討も実施してはどうか。少なくともR7-3で示されたような、比較的、通常生活に密着した道路改築事業よりはその影響が大きいと思われるが、今回のように回収率が低かった場合や対象とする人数がそもそも少ない場合での評価精度には議論の余地はある。</p>			
<p>（回答：農村整備課）</p> <p>(1) 今回のアンケート対象者は地域住民が155者、関係団体は8団体（4土地改良区、1漁業団体、3地元活動組織）で、そのうち回答者は地域住民が56者、関係団体は7団体（4土地改良区、1漁業団体、2地元活動組織）でした。関係団体の対象者及び回答者が少数であるため区分せずに整理しましたが、地域住民と関係団体は性質が異なるため、今後は区分して整理することにします。</p> <p>なお、区分して整理した場合は別紙のとおりであり、このうち、「必要度」・「達成度」について「どちらでもない（わからない）」と回答した関係団体が半数を超えていたため、その理由を改めて確認したところ以下の意見がありました。</p> <p><b>【必要度】</b></p> <p>○地域にとっては良い施設だと思うが、取水に直接関係ない施設である</p> <p><b>【達成度】</b></p> <p>○魚が遡上しているのを直接見たことがない</p> <p>○魚が遡上しているのを見ているが、設計対象魚種であるアユなどを見ていない</p> <p>(2) アンケートの配布は対象世帯への直接郵送としましたが、回収率が低い結果となったことから、郵送だけでなく説明会を開催してその場で回収する方法や、関係機関に直接ヒアリングして詳細に聞き取る方法なども検討していきたいと考えています。</p>			

# アンケート結果

## 問5【認知度】

今回のアンケートの事業をご存知ですか。

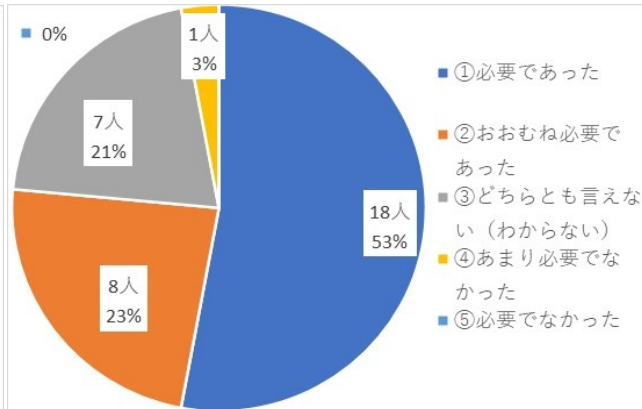
地域住民（有効回答数 55）



## 問6【必要度】

地域にとって「五戸川の魚道整備事業」は必要であったと思いますか。

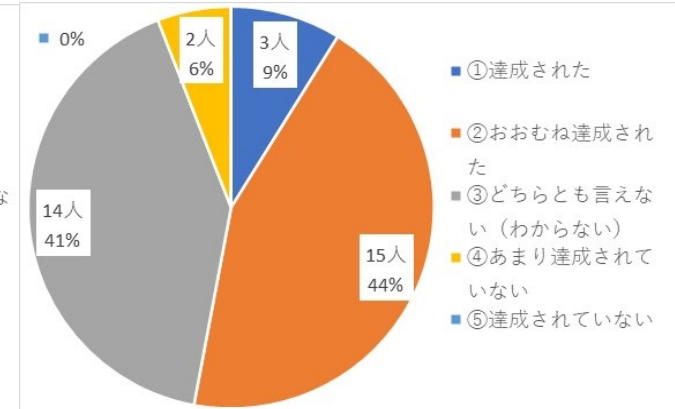
地域住民（有効回答数 34）



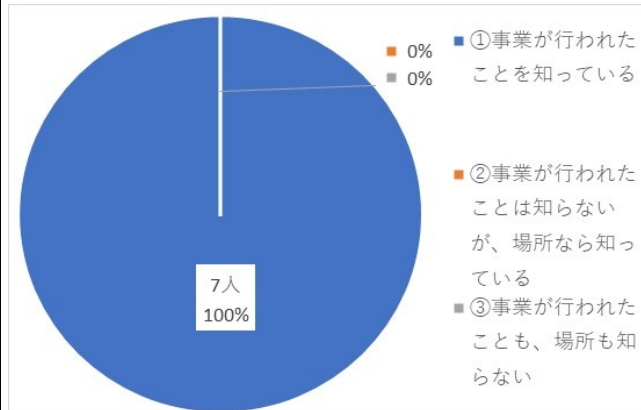
## 問7【達成度】

「五戸川の魚道整備事業」で整備した魚道を見て、河川環境と生態系の保全などの事業目的が達成されたと思いますか。

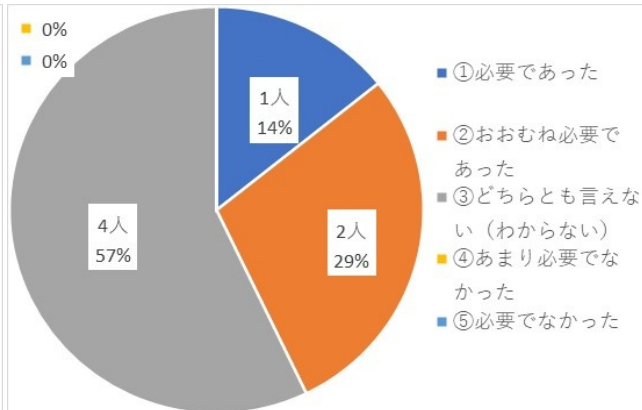
地域住民（有効回答数 34）



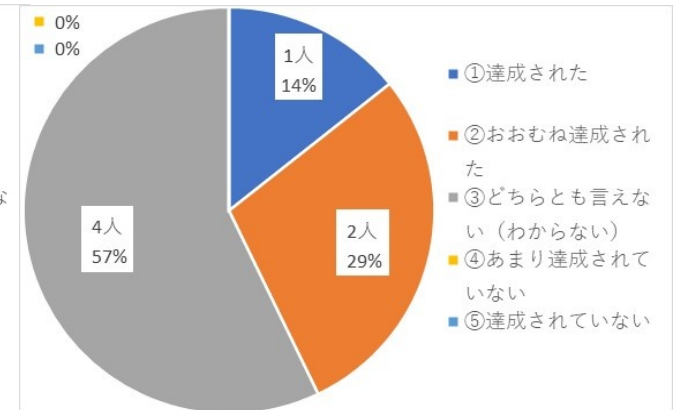
関係団体（有効回答数 7）



関係団体（有効回答数 7）



関係団体（有効回答数 7）

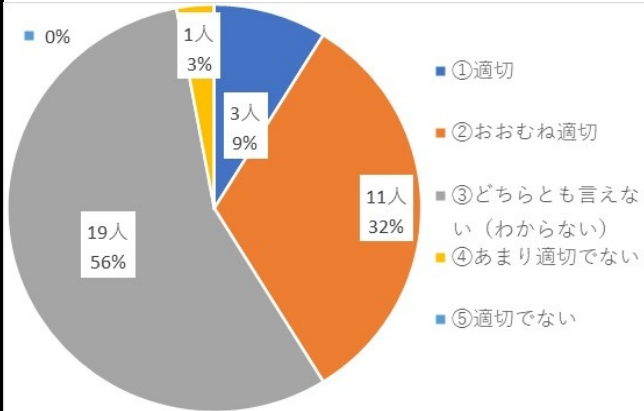


# アンケート結果

## 問 8【管理状況】

「五戸川の魚道整備事業」で整備した魚道は、関係土地改良区が新郷遊漁会の協力を得て管理していますが、管理は適切に行われていると思いますか。

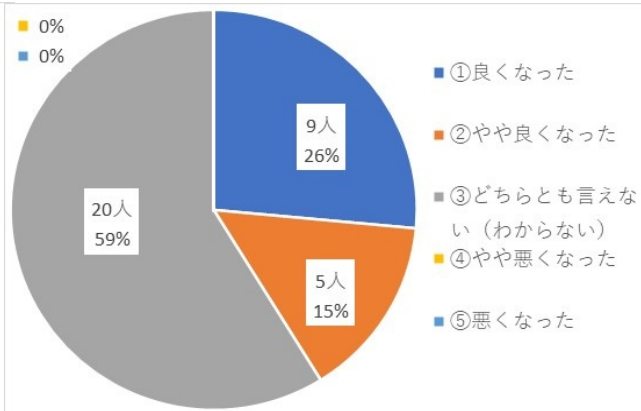
地域住民（有効回答数 34）



## 問 9【環境変化】

「五戸川の魚道整備事業」の実施により、河川環境の状況は、事業実施前と比べてどう変化したと思いますか。

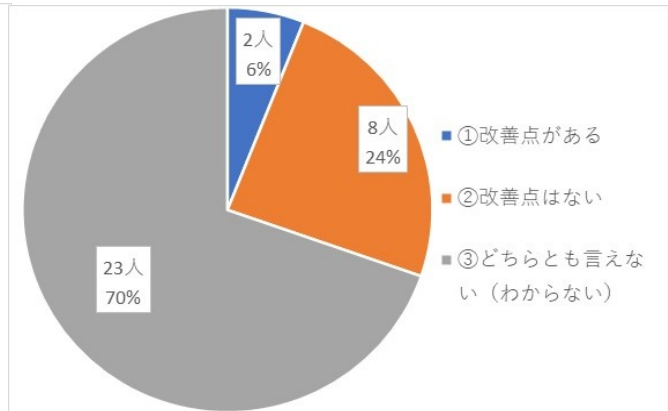
地域住民（有効回答数 34）



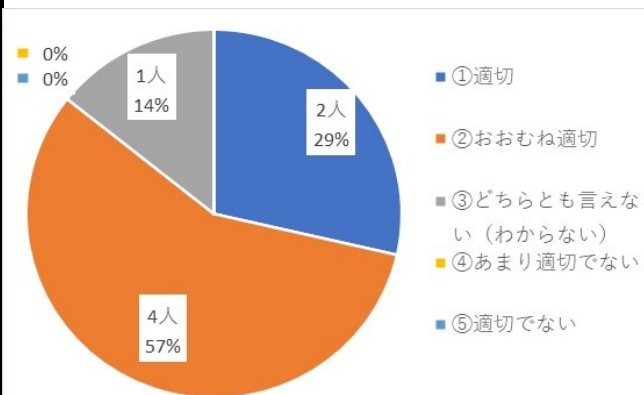
## 問10【改善点】

「五戸川の魚道整備事業」で行った工事や完成した施設について、改善した方がよいと思う点がありますか。

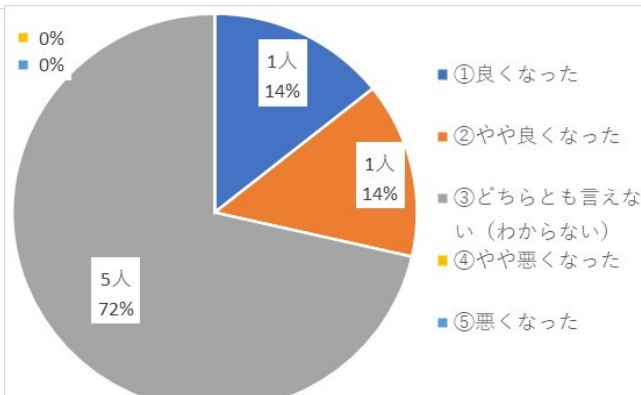
地域住民（有効回答数 33）



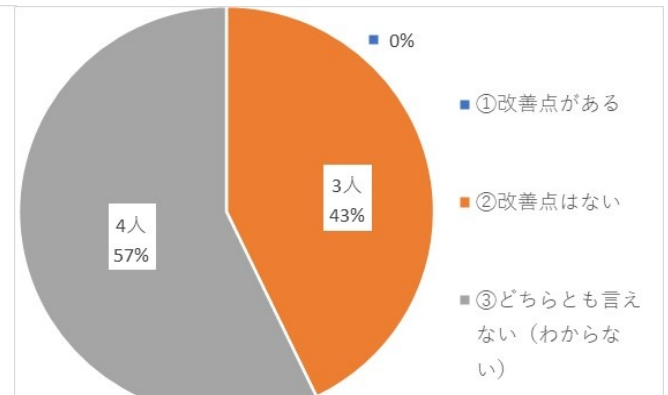
関係団体（有効回答数 7）



関係団体（有効回答数 7）



関係団体（有効回答数 7）

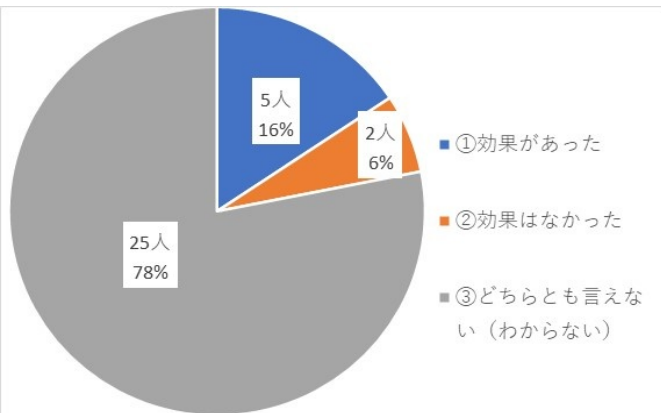


## アンケート結果

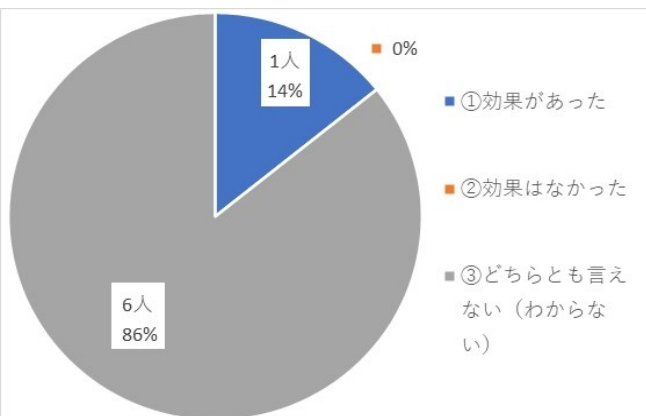
### 問11【その他効果】

「五戸川の魚道整備事業」を行ったことが地域活性化などに結びついたなど、「事業目的」に掲げたもの以外に効果があったと思いますか。

地域住民（有効回答数 32）



関係団体（有効回答数 7）



**令和7年度第2回青森県公共事業再評価等審議委員会  
事後評価調書における事前質問に対する回答票**

質問者	加藤 委員（弘前大学 農学生命科学部 准教授）		
番 号	R7-2	事業名	水産流通基盤整備事業
地区名等	八戸市		
<p>(質問等)</p> <p>R7事後評価時の維持管理費がH29と比較して大幅減になっているのはなぜでしょうか。</p>			
<p>(回答：漁港漁場整備課)</p> <p>H29再評価時は、事業実施中であり、新たに整備される施設の維持管理費を具体的に把握できなかったことから、H24再評価時と同じく、総事業費の0.8%を年間維持管理費と仮定して算出していました。（年間約7,800万円）</p> <p>R7事後評価時では、R2～R6の直近5ヶ年の維持管理費の実績をもとに年間約600万円として算出しています。</p> <p>これにより、H29再評価時の22億3,300万円から、R7事後評価時の4億4,800万円に大幅に減っています。</p>			

**令和7年度第2回青森県公共事業再評価等審議委員会  
事後評価調書における事前質問に対する回答票**

質問者	加藤 委員（弘前大学 農学生命科学部 准教授）		
番 号	R7-3	事業名	道路改築事業
地区名等	3・4・2号西滝新城線（石江工区）		
<p>（質問等）</p> <p>交通事故減少便益がマイナスになっているのはどのような理由でしょうか。</p>			
<p>（回答：都市計画課）</p> <p>交通事故減少便益は、前回評価時からマニュアルが更新され損失算定式の数値が減少したことと、当該路線に関しては整備なしより整備ありの交通量が多く、その分の損失額が高く算出されることから減少したものです。</p>			

**令和7年度第2回青森県公共事業再評価等審議委員会  
事後評価調書における事前質問に対する回答票**

質問者	鈴木 委員（八戸工業大学 工学部 教授）		
番 号	R7-3	事 業 名	道路改築事業
地区名等	3・4・2号西滝新城線（石江工区）		
<p>(質問等)</p> <p>p.5総費用（C）事業費（事前，事後）の内訳を教えてください。 どのような事業項目があり，どの程度費用が掛かっているのでしょうか</p> <p>p.5 特記事項以下の説明文についてわかりやすく説明いただければ幸いです。 「・・・評価基準年が後年にスライドすることにより、過去への社会的割引率の割戻率が大きくなること・・・」</p>			
<p>(回答：都市計画課)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総費用(C)は改築費と維持管理費それぞれを現在価値化して合計した費用で、その内訳は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(事前評価) 改築費2,203百万円、維持管理費 800百万円</li> <li>(事後評価) 改築費7,650百万円、維持管理費1,620百万円</li> </ul> </li> <li>・ 事前評価時は平成18年を基準年としており、事後評価時は令和7年を基準年としていることから、事後評価では事前評価と比較して評価基準年が後年にスライドしているものです。</li> <li>・ 社会的割引率は、基準年度を1として、基準年度以前は年度毎に大きくなり、基準年度以降は年度毎に小さくなります。</li> <li>・ このことから、同じ年度で事業費を現在価値化した際に、事業費に乗じる社会的割引率が事前評価より事後評価の方が大きくなるため、事前評価で現在価値化した費用より事後評価で現在価値化した費用の方が高くなるものです。</li> </ul>			

**令和7年度第2回青森県公共事業再評価等審議委員会  
事後評価調書における事前質問に対する回答票**

質問者	南委員（八戸工業高等専門学校 産業システム工学科 教授）		
番号	R7-3	事業名	道路改築事業
地区名等	3・4・2号西滝新城線（石江工区）		
<p>（質問等）</p> <p>1)資料15/15：費用対効果分析説明資料の便益項目(B)で、(2)走行経費減少便益が大幅に減少している要因は何ですか？、また、(3)交通事故減少便益がマイナスは、どのように解釈すれば良いのですか？</p>			
<p>（回答：都市計画課）</p> <p>整備前より整備後の交通量が多いことと、前回評価時からマニュアルが更新され走行経費原単位が上昇したことにより走行経費が高く算出されたことから、走行経費減少便益が減少したものです。</p> <p>交通事故減少便益は、前回評価時からマニュアルが更新され損失算定式の数値が減少したことと、当該路線に関しては整備なしより整備ありの交通量が多く、その分の損失額が高く算出されることから減少し、マイナスとなったものです。</p>			

**令和7年度第2回青森県公共事業再評価等審議委員会  
事後評価調書における事前質問に対する回答票**

質問者	森（洋） 委員（弘前大学 農学生命科学部 教授）		
番 号	R7-3	事 業 名	道路改築事業
地区名等	3・4・2号西滝新城線（石江工区）		
<p>（質問等）</p> <p>一般住民と企業関係者に分けた場合（一般住民のみ or 企業関係者のみ）と一緒にした場合（一般住民＋企業関係者）での整理結果に対する考察等があると、今後のアンケート方法に対する見直しの参考資料になると考える（例えば、事業内容にもよるが、企業関係者にアンケートを取る必要があるのか。一般住民に質問しても、結局のところ「どちらとも言えない（分からない）」の回答が殆どで、アンケートを取る必要があるのか等）。</p>			
<p>（回答：都市計画課）</p> <p>今回のアンケート結果では一般住民と企業関係者との回答傾向に差異がなかったことから、特に分けた考察はしておりませんでした。今後、回答結果に違った傾向が見られた場合には、ご意見を参考にして対応をしたいと思いますと考えております。</p>			